

第 85 回町田市環境審議会 議事要旨

【日時】 2023 年 8 月 1 日（火） 14：00-16：00

【場所】 町田市庁舎 2 階 会議室 2-1

【出席者】

委員： 堂前委員（会長）、藤倉委員（職務代理）、浅輪委員、根本委員、山口委員、小峰委員、利光委員、野村委員、本目委員、大塩委員、高橋委員、徳武委員、廣田委員

事務局： 環境資源部 塩澤

環境政策課 高橋、土志田、田村、野地、河井、池田、西谷、鈴木、清水

環境共生課 田村、熊谷、大西

傍聴： 2 名

【資料】

資料1 第 3 次町田市環境マスタープラン2022年度進捗報告

参考資料1 2023年度町田市環境審議会委員名簿

参考資料2 第 3 次町田市環境マスタープラン

参考資料3 第 3 次町田市環境マスタープラン概要

参考資料4 第 3 次町田市環境マスタープラン2022年度その他の施策進捗状況

【議題】

「第3次町田市環境マスタープラン」 2022 年度進捗状況について（資料1）

- 事務局から資料に基づいて、説明を行った。

成果指標と進捗状況について

藤倉委員 本環境審議会は第3次町田市環境マスタープランの進捗点検に当たると思うが、本環境審議会で出された意見の取り扱い方を確認したい。

事務局 各課に共有し、施策のさらなる推進のための参考とする。最終的には環境白書としてとりまとめる予定であり、これに反映する。

山口委員 成果指標の評価方法は元々定められているものか。また、本環境審議会では評価方法自体を審議するものかを確認したい。

事務局 成果指標の評価方法は今回新たに設定した。評価方法についてご意見があれば参考にしたい。

小峰委員： 事務局提案の評価方法は「◎、○、△」の3段階評価であるが、目安値から大きく乖離している場合かつ2年連続で悪化した場合は×にしてはどうか。評価として×が出ることは悪いことではなく、×と評価されることで今後の適切な対策が考えられるのではないか。

事務局 最下段の評価の取り扱いは工夫する。

本目委員 基本目標2や基本目標4は市民の方の満足度を成果指標としているものが多い

が、主観的な評価であり、絶対的に環境が悪化しているのかどうかは判断がつかないのではないかと。

事務局 計画策定の際も議論があったが、アンケート結果と絶対評価のバランスを見ながら設定した。まち並みや景観など、内容によってはそのような指標しか設定し得ないものもある。

徳武委員 アンケートの実施時期などを教えてほしい。

事務局 アンケートは2023年4月3日から4月26日にかけて実施している。満15歳から80歳までの市民3,000人に配布し、回収数は1,118人、回収率は37.3%である。

浅輪委員 若者にはデジタルが普及しているなど特性があると考えられることから、アンケート結果は年代別に分析するなどしてみてはどうか。

事務局 参考にしたい。

山口委員 P14で「1人1日当たりのごみ排出量」は減少しているが、「ごみの焼却による温室効果ガス排出量」が増加している原因はなにか。

事務局 ごみ排出量は減少しているが、組成を分析すると、プラスチックごみの割合が高くなっている。プラスチックごみの焼却に伴う温室効果ガスの排出量は、同じ量の他のごみを焼却した場合と比べて多いため、全体として増加する原因となっている。

山口委員 「大気環境、水環境、騒音に関する環境基準の達成割合」が2021年度のデータになっているのはなぜか。また大気環境、水環境、騒音それぞれの達成割合があった方がよい。騒音の環境基準未達成が多くなっている理由はなにか。

事務局 統計の集計時期によって、2022年度以前が最新となる場合がある。第3次計画策定時に、全体で評価することで設定した。道路騒音の環境が悪化したというよりは、道路騒音の環境基準未達成地点が多かったと認識している。

廣田委員 成果指標に対して未達成だったものの要因と、今後成果指標の見直しについてどのように考えているか。

事務局 今年度が計画進捗評価の初年度であり、設定の是非についての見直しはまだ早計だと考える。未達成の要因としては、新型コロナウイルス感染症などの複合的な要因が関連している部分もあると考える。

藤倉委員 満足度を地区別でマップ化してみるなど、成果指標の未達成項目についてはもう少し要因分析してはどうか。P10のアンケート調査結果について、気候変動への対策の質問内容が防災に偏っており、断熱などの熱中症対策や農業の対策などもあってよいのではないかと。次年度以降のアンケート設問を再考して欲しい。P18のエコ宣言事業者の中身がわからないため、公表の際には説明が必要である。市としては、東京都のキャップ&トレード制度の対象となる特定事業者や、廃棄物の多量排出事業者、飲食のフランチャイズ事業者など、環境負荷の大きい事業者に対して宣言してもらえるような工夫をお願いしたい。

重点プロジェクトの進捗状況について

小峰委員 P31の地産地消プロジェクトについて、事業者、市、農協で協定を締結していた

が、事業者の撤退によりプロジェクトは頓挫している。計画変更が必要ではないか。

事務局
山口委員

前年度の評価であるが、仕組みが変わっている場合は今後見直したい。
まち☆ベジ取扱レストランで飲食したが、店内にまち☆ベジ取扱店であることの掲示が一切なかった。店舗などで見える化を図ってほしい。

藤倉委員

総合コメントは事務局作成だと思うが、審議会としては見直したい。第三次計画策定時に関連する成果指標は設定したが、この指標に限った評価をするものではなかった認識である。重点プロジェクト4（地産地消の推進）に関しては農地面積であるとか、重点プロジェクト5（フードドライブによる食品ロスの削減）に関してはごみ組成分析結果など、ダイレクトに評価する方法はある。重点プロジェクトの評価方法および総合コメントの位置づけに違和感を覚える。重点プロジェクトだけでなく、成果指標の進捗状況についても基本目標ごとに総合コメントがあるべきではないか。

浅輪委員

「生きものに関心のある市民の割合」「水辺とのふれあいに満足している市民の割合」「歴史・文化とのふれあいに満足している市民の割合」で満足度が低下している要因の詳細分析はされているのか。

事務局
根本委員

詳細分析はまだである。

重点プロジェクトの総合評価案（◎、○、△）では、定性的な進捗と定量的な進捗を適切に示すことができていないのではないか。

また、◎、○、△を採用する場合、順調に進捗していると錯覚するケースで出てくるように思う。仮に評価として表現するにしても、○が進捗、△が進捗なし、×が後退・悪化といった区分にすべきである。

事務局

重点プロジェクトの評価も成果指標の評価を用いており、P6のとおり設定している。評価方法について改善案があれば、提案いただきたい。

徳武委員

市民の立場からみると×があった方がよい。たとえば水辺とのふれあいが×であれば、何かしら取り組まなければならないことが明確になる。

山口委員

重点プロジェクトの内容に対して関連する成果指標にミスマッチを感じるが、これはあらかじめ設定されているのか。

事務局

第3次計画策定時に設定したものであり、関連する成果指標については現状変更できるものではない。

廣田委員

評価方法を設定した根拠や経緯はあるのか。

事務局

明確に提示できるものはないが、さまざまな自治体などを参考に市民にとってわかりやすいようなもので設定した。

藤倉委員

環境白書の公表前に、本日の議論を反映した環境白書案について議論すべきではないか。

事務局

対面での環境審議会か書面開催かなど、審議方法については未定であるが、環境白書の公表前にもう一度委員の皆様と審議してもらえようとする。開催方法などは堂前会長と検討する予定である。

小峰委員

3月5日に町田市バイオエネルギーセンターで開催されたまちだECO to フェスタはとても活況であった。まちだECO to フェスタを活用して、今後も引き続き環

境の取組や施策などをPRするとよい。

廣田委員 子どもへの環境教育も引き続きお願いしたい。

高橋委員 市内公共交通の車両のEV化促進や、現状で公共交通機関のルートではない地域と市内主要機関、建物、公園などとの間を、事業者と連携した小型乗り合いタクシーなど新增設するなどして、市内交通手段の環境に配慮した充実を希望する。また、まちベジ活動の一環として、市民農園の拡充や、市民農園への交通の便の整備（駐車場完備、巡回バス設置など）、重点プロジェクトの内容をもっと市民に寄り添ったものにしてほしい。

事務局 事業者と調整中の事業もあり、今後も環境政策を推進していく。

- 事務局から今後のスケジュールについて説明を行った。

堂前会長 本日の審議会はこれで終了といたしたい。